

西光寺用

葬儀ガイド

1、はじめに

昨今、葬儀^{そうぎ}の在り方が多様化してきました。葬儀^{そうぎ}をする・しない、直葬^{ちよくそう}、家族葬等、いろいろ考えられ、また今後も様々な葬式が出て来ることでしょう。葬儀の手引きは、時代、宗教、宗派、地方の風習によって異なります。そういった中で、いざ葬儀となった時に戸惑う方もおられるようです。悲しいかなや、寺院、僧侶、葬儀社とのトラブルの話もよく聞くところです。

そこで、西光寺の葬儀の手引書を作成してはどうかという話が上がりました。約1年の時をかけ、お寺の法座を通して葬儀について考えてまいりました。概ねの葬儀の流れ、皆さんの疑問に思う所を著したつもりです。皆様の参考になれば幸いです。又、葬儀が起きる状況は様々ですので、この冊子の方法で絶対にしなければならない、といったことはありません。その時々で、相談して催していければと思います。

2、葬儀とは

葬儀は何のために勤めるのでしょうか。まずは葬儀の意味について考えていきましょう。

葬儀…「葬」は「とむらう」と読みます。「とむらう」には「弔」の漢字がありますが、もうひとつ「訪」の字を「とぶらう」と読むのです。

「訪」は訪ねるの字。つまり、葬儀とは単なるお別れ会だけではなく、また会おうね、また行くからね、また会えたねと仏のご縁を通して出会わせていただく場です。

悲しい中に、悲しいだけでは終わらせない、悲しいからこそまた見えてくる光がある。この価値の大転換が、浄土真宗の葬儀です。

葬儀をする中で、いのちのありかたを考えていきませんか。

3、葬儀の主な種類

ここでは主な葬儀の種類をあげています。それぞれの特徴です。(費用は目安)
状況にあったやり方であることが大切です。

葬儀会場	費用	200～300 万円
	メリット	・すべての工程を葬儀社スタッフが行ってくれる。 ・様々なサービスを提供してくれる。 ・人数が多い場合も対応できる。
	デメリット	・余分なサービス、違う宗派のサービスがつくことも

家族葬 (会場)	費用	20 万～
	メリット	・少人数で、考え事が少なくて済む。 ・費用が他に比べ安い
	デメリット	・近所にいかに伝えるのか、知らせていない人にいかに伝えるのかに悩む場合が多い。

寺院	費用	30～40 万円
	メリット	・寺院の雰囲気ですべての葬儀ができる。
	デメリット	・お寺の行事がある日はできない

自宅	費用	30～40 万円
	メリット	・自宅の雰囲気そのままですべての葬儀ができる。 ・近所の人がお参りしやすい。

4、葬儀の流れ

ここでは、臨終から一周忌までの流れを載せています。

- 1、 臨終
- 2、 お寺に連絡
- 3、 臨終勤行／枕経 りんじゅうこんぎょう まくらぎょう 御往生されてすぐのお勤め。住職と相談ができます。(夜間可)
- 4、 葬儀社に連絡
- 5、 通夜 つや
- 6、 葬儀 そうぎ
- 7、 還骨 かんこつ 火葬の後、西光寺で主に勤めます。
- 8、 初七日 しよなのか 命を考える機会です。できるだけ初七日（臨終から6日後）に勤めることをお勧めいたします。
- 9、 四十九日まで しじゅうくにち 1週間づつ四十九日まで7日参りをするのか、初の命日と四十九日を勤めるのか決めて下さい。
- 10、 百箇日 ひゃっかにち
- 11、 一周忌や初盆 いっしゅうき はつぼん お盆は普段通りで結構です。いつでもどこでもの仏様ですから、特にお盆の日だけ帰ってくる考えはありません。したがって提灯やなすの飾りなども必要ありません。

5、布施

布施について質問を受けることが多いです。やはり一番気にかかるところなのでしょう。布施とは一体どういうものなのでしょうか。お布施がかかるから葬儀をやめるという悲しい話があります。また、高額のお布施によるトラブルなど、葬儀の布施収入をあてにした情けない僧侶の話もあります。ここでは、布施について考えていきましょう。

布施とは

古代インド語の dana（ダーナ）が語源です。檀那さん、臓器提供者のドナー、いずれもダーナが語源です。施すという意味があります。布施は、大乘の菩薩にとって仏に成るための実践のひとつ。その六つの実践を六波羅蜜といいました。

布施（ほどこす）、持戒（戒めを守る）、忍辱（耐え忍ぶ）、
精進（励み続ける）、禅定（こころを静める）、智慧（真理をみきわめる）

＊御開山親鸞聖人は、深い人間観察の中で、いずれの行も及び難いことから、行を実践する事よりも、行を達成された阿弥陀如来の願いを聞く本願他力の教えを開かれます。浄土真宗の教えの根本です。

布施の種類

現代は現金社会なので、お布施＝現金、ですが、実はそればかりではありません。

三施 ・財施……財を捨てて貧を救う
・法施……教えを説く
・無畏施…恐怖を取り除く

無財の七施（財がなくても布施ができる）

・眼施……優しいまなざしで接する	・和顔悦色施…和やかな顔で接する
・言辞施……慈しみの言葉をかける	・身施……身体で奉仕する
・心施……損得を考えずに思いをかける	・床座施……席を譲る
・房舎施……家に泊める	

布施の考え方

三輪清浄…以下の三方がきれいではないといけません。布施を受け取る坊主が多い少ないで判断していけない!!（所施）

・能施…布施を渡す側がこだわらない
・所施…布施を受ける側がこだわらない
・施物…布施自体がよこしまでない

じゃあ、結局いくらなの？

これまで、述べてきたとおり、いくらというものではないのです。月並みの言葉かもしれませんが、お気持ちで…となるわけです。相場と聞かれても、地方によっても、現役世代、年金世代で相場は違います。一軒一軒 1 人 1 人条件が違うので相場も答えようがありません。お寺との関係は長い付き合いですから、長い付き合いをするには無理をしないでください。もし、それでもいづらか言ってくださいといわれれば、「では食費の一か月分」と概ね答えるようにしていますが、これでどうでしょうか。

6、法名と戒名

戒名料が高かった、という話もよく聞く話です。金額によって位が変わるなど、おかしい話じゃありませんか。平等を説く仏教が、金持ちを救う宗教に成り下がってしまいます。

浄土真宗では、戒名ではなく、法名といいます。

法名…仏門に入った名のことです。中国古来より、釈〇〇の三字を受け継いでいます。本来は生前に受ける（西本願寺や築地本願寺で）ものですが、故人が受けていない場合、通夜で帰敬式（おかみそり）を行い、住職が代理でつけます。

戒名…仏門に入った名の事です。戒律を守り、仏道修行を実践していくことが大切です。また、戒を達成した位（居士、大士、大姉など）や、生前の役職名が付く宗派もあります。

*浄土真宗は、心を清く、行いを正しくすることが出来ない我が身を、大慈悲の光で照らして下さる阿弥陀如来におまかせする教えですので、戒律を守ることを重要視しない（というより守れないことを前提）ため、法名となります。

法名料はあるの？

ありません。西本願寺や築地本願寺で受ける場合、1～2万円を冥加金として納めれば受けることができます。住職が葬儀の際、代理でつける場合には、必要ありません。

院号をつけたい

浄土真宗においても、釈〇〇以外に、上に〇〇院と付く場合があります。これが院号です。

院号…元々は、貴族が隠居する住居の呼び名を、〇〇院と言いましたが、時代の変遷とともに変化しました。現代では、本山（西本願寺）の護持に尽くした方に本山から与えられます。現代は現金社会ですので、寄付をなさった方です。もし、院号が欲しい方は、ご相談ください。しかし、院号で位が上がるといった発想は一切ありません。

7、四十九日までのお参りの仕方を決めて下さい。

葬儀後、正式な初七日の日にお参りをします。（お寺でも自宅でも可）その後、四十九日まで、毎週七日参りをするか、次の命日（初命日）にお参りをしてから、四十九日を勤めます。これらは、家にいる人だけで結構です。日程、時間等ご相談ください。

8、その後の仏事（法事以外で）

様々なお参りの仕方があります。仏様のご縁、いのちを考えるご縁を大切に・・・

つきめいにち月命日…毎月の命日にお参りをする しょうつきめいにち祥月命日…命日にお参りをする。

お寺の行事への参加

盆、彼岸参り…各家庭参り、お寺での法要 ほうおんこう報恩講への参加…親鸞聖人の法要

9、終わりに

以上、書き足りない部分もありますが、特に葬儀で必要な部分を掲載いたしました。皆様の参考になりましたでしょうか。ご質問等ございましたら是非言ってください。それがまた第二版となり、よりよい葬儀の手引書となります。一緒作りましょう！！